

1. テーマ

世界や日本の経済の実態の理解しながら、卒業論文を作成・提出して貰う。

2. ゼミのねらい・概要

学生諸君が本学を卒業するにあたっては、言うまでもなく、これまで教わった専門科目（経済学・経営学等）の知識を活かしつつ、その集大成として、各自が関心のあるテーマを設定の上、最終的に卒業論文を仕上げて貰うことが求められる。そのため、本ゼミでは、①世界・日本経済の実態を学ぶためのセッション、②卒業論文指導のためのセッション、の2部構成とする。まず、これまでの復習を兼ねて、卒業論文のテーマの模索、生活やビジネスに役立つ知識の取得等の位置付けで、世界・日本経済の実態を把握するための主要課題を理解し、知的刺激を味わって貰う（上記①）。一方、これらの知識を踏まえて、自分の意見や考え方を適確に伝えるための訓練も行いながら、卒業論文作成にあたっての指導に注力していく（上記②）。なお、必要に応じて、学生諸君の就職や進学等の相談にも積極的に応じることとする。

3. ゼミ計画（回によって①・②の時間的割合の変更あり）

〈前期〉 第1回～第5回： ①平成の日本経済を振り返る ②研究分野の把握 第6回～第10回： ①第4次産業革命と日本 ②研究分野のリサーチ 第11回～第15回： ①人口減少と少子高齢化 ②卒業論文テーマの設定	〈後期〉 第1回～第5回： ①財政・金融政策の現状と課題 ②卒業論文研究の中間報告 第6回～第10回： ①エネルギー問題と地球温暖化 ②卒業論文の執筆状況の確認 第11回～第15回： ①グローバル経済と日本 ②卒業論文の最終確認
---	---

4. 到達目標

卒業論文作成を通じて、自らの専門性やプレゼンテーション能力を高めることにより、将来的に社会人として活躍する際、グローバル化されたビジネス社会に適確に対応できるようなモノの捉え方や考え方を育てるようにする。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

毎週60～90分程度、テキストの事前熟読、各自の卒業論文のための情報収集をそれぞれ行い、それらに関する自分の意見や考え方を纏めておくことが求められる。

6. 成績評価の方法・基準

知識の理解度、議論への参加状況、提出物等を総合して評価する。

7. テキスト・参考文献

教科書は、藤井彰夫（著）『日本経済入門』（日本経済新聞出版社、929円＋税）を用いるので、受講者は必ず購入すること。そのほか、補足資料を随時配布する。また、参考文献は、ゼミ内で随時紹介していく。

8. 受講上の留意事項

卒業論文の作成には主体性と専門性が求められるため、遅刻や欠席をせず、毎回必ず出席し、ゼミ活動に真摯に取り組むこと。また、留学生には、経済学・経営学の基礎文献を読める程度の日本語能力が求められる。